



中村俊定文庫
文庫 18
350





俳諧枕八徳序



仙や鶴子跨うを鯉子乗〜〜若波
 九天子遊化き〜〜の何〜〜是の〜
 仙堂〜〜人休歩已よ西浦結僊窟子〜
 僊録已よ本〜〜の社友〜〜の女子其流八仙
 子〜〜〜僊窟〜〜の〜〜成〜
 想〜〜も仙窟〜〜は〜〜僊窟も〜〜ん

也心志の心

戊寅三月

秋光庵

秋光庵経素題

仙遊桃八仙自序

予古々——仙儒客と讀く志きり子
 流清源も由——時や桃咲始かん武城
 河も乃吸露菴中——雲水一抹清
 也お落——始る日自清静と豊子は
 社友清彼と合々——古に仙遊客と定
 承徒又八儒と称すれ共俱子三十六吟

うゑ歌仙又たく下ふ流梨よりやほ子敷
十重と密依の依子席上よいひ推しを垣
抜是のとも仙結縁子あしきよきや此景
世中へる業まはは盗しをきし一野自
子元去りしやいそあ

武西

青梅

青華梅友州稿



俳僊窟記

吸露庵主人

志きし一町一末青梅結里武西梅と
去より十里所多入る西にあり其里
と東もよあし目結能る及結能
と平子牛の柱し一草すりしと居し
多乾味容練る黄ふうしと結能
人志ししあしと月結能結能

史子玉川乃流子松と云る一は
建おりの入の笑林の至りて爰に遊
とりのまゝに宣推の風洗雪柳枝
可由法徒にまゝに里餘りよる入る
く二侯尾やういふまゝに山はぬと
かの徳性勇気なり二子を古雅な
松は流しにまゝにたぐひて
はは彼は黄志めりてわつとや梅は

史子もいふ是は古石よとあるに
かゝるまゝに固難なりといふは
吾もいふ一にりりりりりりりりりり
まは梅はまゝにいふに人のつと
流しと名にやまゝに梅はまゝに
あゝまゝに社中子傳流りまゝに
史子もいふ梅の者史子いふに
一よりいふ仙共よまゝに梅はまゝに



雅志の丹田子孫の如くは山の手を
 せんしつて仙窟の如くは山の手を
 桃李乱るる其名は梅の如くは
 所は梅の嶺や人子仙女何を請ふ
 花子来恨ん去りや玉川乃釣及人子此桃源
 の山はさかひの如くは仙窟の如くは

仙まうく人方お境とまき

一方まき仙境お境とまき

涼節

久お境やば田お境うちお境と

因お境お境中一カよ八仙 喜所

彩お境お境と火入よぬまき 笑ぬ

海まきまきお境お境とまき 宜指

香の目お境お境とまきお境とまき 洗言

早お境お境とまきお境とまき 吹風

早お境お境とまきお境とまき 柳枝

千里お境お境とまきお境とまき 可由

夏入お境お境とまきお境とまき 徳性

像お境お境とまきお境とまき 勇張

お境お境とまきお境とまき 海

吉お境お境とまきお境とまき ぬ

五お境お境とまきお境とまき 推

情お境お境とまきお境とまき 舌

節お境お境とまきお境とまき 風

お境お境とまきお境とまき 枝

節お境お境とまきお境とまき 由

幸能能身下... 性
 昔の能う... 州
 影よ... 州
 庚... 州
 吃... 州
 言... 州
 好... 州
 和... 州
 武... 州
 一... 州

出... 州
 之... 州
 益... 州
 友... 州
 ほ... 州
 地... 州
 笑... 州
 折... 州
 性... 州

係... 仙家... 影...

如既紅彩以出———物う服 七 笑林
 一———一———一——— 正推
 助云ほや石の指うは 蕨うの 陰風
 目よのま———ま———ま——— 柳枝
 一———一———一——— 洗雪
 双ハも入れはは———と 蛙が 可也
 飄う———ま———ま——— 種おろ 徳往
 及、彩もの———や 粘もま——— 勇瑛
 嘗やばるも又目——— 東——— 麥洲

吸海左附合

壽法 深きおきおきうふ阿くま
 おは———る 居 結さる ぬれ 日 暮
 跡———は 結 阿 何 ぬ 飛 石
 遠道こま 幸 留 好 ぬ 馳 走 たり
 ね 統 ぐ 竹 の ぬ 結 障 ぬ
 か———結 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 留 結 利 一———ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

一臺所のうゝ、薄くとも 掃く
介、~~~~~ 願軍といふおりのまゝ

案内は主生流小橋といふやうに
下へ、乃、横顔を返棧子あり

細く、麻の蔭~~~~~ 水
能、用や、歌、結、命、の、冠、飾、あり

眠~~~~~ か、灯、を、半、く、添、へ、く、有、り
ハ、透、く、波、も、頂、へ、流、れ、を、身

海、く、吹、り、も、~~~~~ 波、く、く、波、
と、密、に、た、ま、く、~~~~~ 思、ひ、を、~~~~~ け、り

着、之、師、を、屏、風、~~~~~ 海、舟、に、乗、り、て、居、る
さ、い、揺、り、~~~~~ 悪、く、相、~~~~~ 合、ふ

衣、の、破、れ、と、儀、~~~~~ 後、正
那、那、々、皆、さ、ま、ん、そ、~~~~~ け、つ、~~~~~

合、真、~~~~~ 長、~~~~~ 中、~~~~~ 合
之、所、~~~~~ 合、~~~~~ 合、~~~~~

坊、主、~~~~~ 風、~~~~~ 流、~~~~~ 所、~~~~~ 共、
茶、~~~~~ 宮、~~~~~ 流、~~~~~ 所、~~~~~ 共、

招、燈、~~~~~ 燈、~~~~~ 燈、~~~~~ 燈、
十、六、~~~~~ 十、六、~~~~~ 十、六、~~~~~ 十、六、

北山も困りしを有るに
味下は子しんく首細とあり

六波羅のまじりく
ちり子と醒しけり
麻の衣のまじり

折し西子谷原ひ
つらうもあはれ
系乃海に所
佛もつら
畫院 斗波面
三石原了まん

近目う原う
門人牛牛
面ふや
麻の衣
深を合
白異
あ

佐藤も
近目う原う
門人牛牛
面ふや
麻の衣
深を合
白異
あ

佐藤も
近目う原う
門人牛牛
面ふや
麻の衣
深を合
白異
あ

佐藤も
近目う原う
門人牛牛
面ふや
麻の衣
深を合
白異
あ

佐藤も
近目う原う
門人牛牛
面ふや
麻の衣
深を合
白異
あ

佐藤も
近目う原う
門人牛牛
面ふや
麻の衣
深を合
白異
あ

佐藤も
近目う原う
門人牛牛
面ふや
麻の衣
深を合
白異
あ

佐藤も
近目う原う
門人牛牛
面ふや
麻の衣
深を合
白異
あ

佐藤も
近目う原う
門人牛牛
面ふや
麻の衣
深を合
白異
あ

望み日如きありうとち
日はあゝゆきあを押し

舟のちかき音に
ゆきあを押し

臧まきまき
臧まきまき

かたしよきまきまき
かたしよきまきまき

笑招きまきまき
笑招きまきまき

唐中の中かき春
唐中の中かき春

細きこもり
細きこもり

涼も長屋も
涼も長屋も

あま川
あま川

栗のきり
栗のきり



山林畫門人

石門暢溪之

笑人の伯ッそこうろつ丸合羽
腰よりうろろ仕立人 白粉

墨とと柳々々々長一口上
柳からんと握拳、落々 石

借つてをと戻れは位のお目や
者よりうろろ今人ハ舞

酣々歌時ハ友ハ舞と叫
人買ハ歌者ハ歌探ハ石

久しと交結上を和り結
みを破れハ歌々うろろ

